



一般社団法人 多文化社会専門職機構

TaSSK

文部科学省委託 令和6年度現職日本語教師研修プログラム普及事業「地域日本語教育コーディネーター研修」

(11)活動と広報②—地域日本語教育における広報

地域日本語教育活動に必要な効果的な広報について学ぶ。

土井佳彦

(多文化社会専門職機構・多文化共生リソースセンター東海)

1



一般社団法人 多文化社会専門職機構

TaSSK

文部科学省委託 令和6年度現職日本語教師研修プログラム普及事業「地域日本語教育コーディネーター研修」

(11)活動と広報②—地域日本語教育における広報

講師:土井佳彦

多文化社会専門職機構・多文化共生リソースセンター東海 代表理事

1979年、広島生まれ。大学(副専攻)で日本語教育を学び、卒業後、留学生や技術研修生らを対象とした日本語教育に従事。同時に、地域日本語教室にもボランティアとして参加。2008～2012年、名古屋大学「とよた日本語学習支援システム」で初代システム・コーディネーターを務める。2016年より、文化庁「地域日本語教育アドバイザー」として、各地の日本語教育施策の企画立案や運営支援に携わる。

2

本講義のポイント

-  自分の普段の“情報収集”を振り返ってみましょう
-  広報の役割と基本的な考え方を整理してみましょう
-  広報する際のポイントを整理してみましょう
-  過去の広報を振り返ってみましょう
-  今後の広報を考えてみましょう

3

3

私の普段の“情報収集”

-  あなたは普段、お仕事に関すること以外でどのような情報を求めていますか？
-  その情報は、どのような方法・ツールで入手していますか？
-  その情報は、だれ・どこから発信されたものですか？
-  得られた情報に対して、どのような場合にどのようなアクションを起こしますか？
-  得られた情報に対して、アクションを起こさない場合の要因は何ですか？

4

4

広報の役割と基本的な考え方

広報の役割

- ① 情報という社会資源を創り出すこと
- ② 情報という社会資源を必要とする人に届けること
- ③ 情報という社会資源の存在を周知すること

広報の基本的な考え方

広報は、コミュニケーション!



5

5

広報する際のポイント

 対象を明確に

 タイミングは適切に

 目的を明確に

 デザインは適切に

 期待するアクションを明確に

 モニタリングを忘れずに

 方法・ツールはマルチに

 フォローアップは丁寧に

 経路はマルチに

 効果測定は丁寧に

6

6

過去の広報

- | | |
|---|---|
|  対象はだれだった？ |  タイミングはいつだった？ |
|  目的は何だった？ |  デザインはマッチしていた？ |
|  期待するアクションは何だった？ |  モニタリングをしていた？ |
|  方法・ツールは何だった？ |  フォローアップをしていた？ |
|  経路はどこからだった？ |  効果測定はできていた？ |

7

7

今後の広報

- | | |
|---|--|
|  対象はだれか？ |  タイミングはいつか？ |
|  目的は何か？ |  デザインはマッチしているか？ |
|  期待するアクションは何か？ |  モニタリングはどうするか？ |
|  方法・ツールは何か？ |  フォローアップはどうするか？ |
|  経路はどこからか？ |  効果測定はどうするか？ |

8

8